

第4回第15次多治見市廃棄物減量等推進審議会議事要旨（主な意見）

日時：令和8年7月16日 午前10時00分～午前11時30分

場所：多治見市役所本庁舎2階大会議室

出席者 行本会長、小林副会長、山口委員、安藤委員、梅村委員

欠席者 山田委員

事務局 岩田環境文化部長、山田環境課長、渡辺清掃事務所長、環境課小栗リーダー、伊藤、吉竹、三の倉センター野口

1 第3回廃棄物減量等推進審議会（主な意見）の報告

主な質疑、意見等はなし。

2 第4次一般廃棄物（ごみ）処理基本計画(案)

○主な質疑、意見等

(委員) 13と14ページに収集車両の内訳が掲載されているが、直営と委託の業務範囲の違いはどのようなか。

(事務局) 旧多治見市内の家庭ごみの収集は直営で行っている。旧笠原町地内の家庭ごみとリサイクルステーションの資源の全市の回収は委託している。

(委員) 今後回収する製品プラスチック等は、直営と委託のどちらを考えているか。

(事務局) 今のところ、資源として収集する予定。委託になるかと考える。

(委員) 20ページに「メタル」の量が掲載されているが売却できるものか。その用途は何か。

(事務局) 以前は「おもり」のような使い方をすると聞いていたが、最近は合金メタルが精錬され金属ごとに抽出されていると聞く。多治見市の場合、トン当たり、11万円程度で売却している。

(委員) 44ページで、埋立処分場の処分量の予測がしてある。「t（トン）」での重量の表示になっているが、埋め立てる容量だと「m³」のほうがわかりやすい。例えば飛灰の埋立量はどれくらいになるのか。

(事務局) 比重では1.55 t/m³としており、令和9年度の飛灰の予測値「2,436 t」で計算すると「1,571 m³」になる。

(委員) テトラパック（アルミ付き紙パック）の回収を店舗で始め、有価で引き取ってもらう仕組みを作ったものの、あまり回収できていない。牛乳等の紙パックと売上量を比べるとテトラパックは50分の1くらいなので、仕方ないところはあるが、アルミの資源化にもなるので、広報等にご協力いただけるとありがたい。

(委員) 「不法投棄パトロール」の継続が方策にあるが、どの程度行っているのか。

(事務局) 現在、昼間190日、夜間15日パトロールを行っており、4から4.5tの収集をしている。パトロールをして回収することで、更なる不法投棄を誘発しないよう取り組んでいる。

(委員) エアコンや洗濯機のようなものが捨てられているようなイメージがあるが、どのように収集しているか。

(事務局) 軽トラで収集している。委員がイメージされているものもあるが、通常の「燃やす

ごみ」や「破碎ごみ」としてステーションに出せるものが捨てられている印象。捨てられなくて困ったものばかりが不法投棄されているわけではないように思う。

(委員) 43 ページに「廃棄物処理施設の維持管理の技術上の基準」とあるが、市の基準なのか、国等の基準なのか明記しないとわかりにくいと考える。

(事務局) 廃棄物処理及び清掃に関する法律施行規則に規定されるもので、排ガスやばいじん等の基準が示されている。排ガス中のダイオキシン類の濃度は、国よりも厳しい多治見市独自の排出基準を持ち、安全に管理している。

(委員) 31 ページの表 3.27 の可燃ごみの組成について、表の数字を足しても 100%にならない。表記ミスではないか。

(事務局) 毎月行っている分析の結果を項目ごとに平均し表記した関係で、100%になっていない。100%にするよう調整する。

(委員) 「天ぷら油」にはいろいろな種類があるように思うが、どのようなものでも BDF が作れるのか。

(事務局) 食用油であれば、加工は可能。

(委員) 天ぷらを揚げない家庭が増えていると聞くと、事業者からも受け入れているのか。

(事務局) 事業者からの受け入れはしていない。

(委員) 店舗で排出する廃油は、有価で受け取ってもらっており、主に堆肥や養豚の餌になっている。食用油自体の売り上げが減っており、家庭で天ぷら等をされる方は減っていると感じる。

(委員) 9 ページの「天ぷら油」の収集量と 42 ページの「搬出量」の差の要因は何か。

(事務局) 42 ページの搬出量の予測は、リサイクルステーションで回収する量に加え、堆肥化センターが給食センターや病院から回収する分も含め推計した。

今までのご意見から、今後大きく減少していくおそれがあるものの、本計画では微減での推計としたい。

3 その他

今後のパブリックコメント等のスケジュールや次回の審議会の開催時期について説明。